

酒類・食品 & News 解説

週刊

令和7年1月3日(金曜日) 第3428号
(昭和42年7月10日第3種郵便物認可)
毎週金曜日 発行 編集発行人 石母田 健
購読料 6ヵ月 15,730円(税込み)
振替番号 東京4-71739
発行所 株式会社 日刊経済通信社
本社/東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋府川ビル9階
☎03(5847)6611(代) FAX 03(5847)6600
名古屋支局☎052(253)6924 大阪支局☎06(6353)1791
http://www.nikkankeizai.co.jp/

25年の酒類食品産業

食を楽しむ文化を醸成



観光客でにぎわう師走の浅草・仲見世商店街

能登半島地震や能登半島豪雨の復旧・復興は進まず、ロシア・ウクライナ問題は長期化、アメリカでは大統領の就任を控え、先行きが全く不透明なまま、新年を迎えた。原料相場は落ち着きを見せる作物もみられる一方で、コーヒード、オリーブ、ごま、カカオ豆は高騰。メーカーの利益を圧迫する要因になっているものもあり、気候変動に加え、世界の需給国際情勢から目が離せない一年となりそうだ。

これまで前年割れや前月割れを繰り返してきた居酒屋・パブの客数は、過去最高水準で推移する

業務用再活性化が急がれるビール

ビール類

4月1日から4社の値上げが決まっている2025年のビール類市場。焦点は仮需とその反動を経た後いつまでその影響が続くかにある。某メーカーでは、4月以降、値上げの影響はビール類全体で6%規模に及ぶと試算。これが減税値下げの恩恵を受けて3年連続で伸長したビールにどう影響するのか、逆に増税が

逆風となり4年連続で縮小したエコノミーカーテゴリーの減少に拍車をかけるのか。さらには、コロナ禍からの回復に陰りが見えている業務用需要にどう作用するのか。その影響は未知数だ。だが、こういった時こそ、地道な消費喚起策を積み重ねていくことが求められ、中でもコロナ前の水準にはまだ遠い業務用市場でのビール消費活性化が急がれる。

本紙が推定した24年の国産大手4社ビール類販売は、ビールが前年比105%強の約1億8200万箱(大びん換算)、旧新ジャンルと発泡酒の計であるエコノミーカーテゴリーは89%強の約1億4500万箱、合計では97.5%程度の約3億2700万箱と2年連続のマイナスとなった。カテゴリー構成比は、ビールが55.7%、エコノミーが44.3%だった。ビールは

主な内容

2025年酒類食品業界1〜9号
(ビール、焼酎、洋酒、低アル、アルコール、甲類、R、T、D、飲料、ビール、コーヒ、飲料、自販機、飲料用PE、果汁、野菜、Tボトル、飲料、野菜、発酵乳、加工品、カレ、菓、流)

直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新	カゴメ山口社長	11面
直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新	ル・パル粉糖 龍原社長	12面
直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新	日本アパ 服部社長	13面
直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新	三井物産 流田社長	14面
直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新	通商 谷本 柴田社長	15面
直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新	三菱 谷本 柴田社長	15面
直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新	食品 谷本 柴田社長	15面
直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新	食品 谷本 柴田社長	15面
直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新	食品 谷本 柴田社長	15面
直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新 直新	食品 谷本 柴田社長	15面

◎次号1月10日付は休刊とさせていただきます。

訪日外国人によるインバウンド需要で回復の兆しがみられる。人手不足を補うため、ロボットを駆使しながら配膳を行うといった光景も日常茶飯事となり、食の分野でのIT化・DX化が日進月歩ならぬ秒針分歩で続けられている。

飲まない選択を尊重する価値観が広まり、飲む人、飲まない人がともに場を楽しむ光景も増えてきた。一人で、みんなで、あらゆる場所で食を楽しむ文化がより醸成される一年となる。(川田岳郎)

各社の主要銘柄の多くが堅調に推移し、新製品や業務用展開で加速した23年の新製品が上乗せしたが、夏以降失速気味の業務用需要が下押し要因となったことも事実だ。エコノミーは、増税で価格差が開いたRTDへの消費流出が減少の最大要因となった。それでも、エコノミー構成比が44%を超えているのは、依然として高止まりしている生活防衛を反映した結果に他ならない。上位銘柄の半数以上がエコノミー商品であることも、それを裏付けている。

こうした消費構造に、今回のビール類としての値上げがどう影響するのか。一般庶民の懐事情が改善されないまま、利上げや複数の増税率が浮上している経済環境は、お世辞にも良いとは言えない。最も危惧されるのは、そうした中で業務用需要の停滞が続き、新製品効果も一巡したビールの伸長が止まり、エコノミーの減少も加速、ビール類としても3年連続のマイナス、しかもその幅が拡大するというシナリオだ。

(2面に続く)



●A4判速報形式
●有力企業広告も掲載
●購読料 6ヵ月45,100円(税込み)

業界唯一の酒類食品総合日刊紙。多忙の時はヘッドラインをお読み下さい。本文も簡潔、明瞭です。

独自の調査による統計・レポートづくりを通じて50余年。今後も酒類食品業界をデータとして記録し続けます。

●B5判雑誌形式。毎月月末発行
●有力企業広告も掲載
●購読料 6ヵ月24,750円(税込み)

